



静岡県教育委員会
教育広報紙

自立し、互に関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

Eジャーナルしずおか

平成27年(2015年)
9月7日
月曜日
第158号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3168 FAX 054-221-3561 E-mail kyoul_selsaku@pref.shizuoka.lg.jp

高校と図書館の連携講座で 地域へ情報発信!

磐田ハイスクール講座

磐田市は市の中心部に図書館と高校が隣接しています。そのような立地を生かし、市内の県立高校4校と、市立図書館のコラボレーションで、地域住民を対象とした「磐田ハイスクール講座」が2年前から市立図書館等を会場として実施されています。



おもしろ植物発見

4校の特色を生かして

磐田南高校はスーパーサイエンスハイスクールとして理数系教育の推進、磐田北高校には介護福祉を学ぶ福祉科、磐田農業高校は園芸や食品の農業関係の学科、磐田西高校は総合ビジネス科(商業)があり、各校それぞれに特色があります。

こうした特色を生かして、教員や生徒が当日の講師を務め、各校が生活や学習に役立つ講座を展開してきました。4校が合同で企画運営したので、参加者に様々な内容を提供でき、市の広報に取り上げられるなど話題性も増しました。

図書館とコラボして

図書館と高校が連携し、互いの強みや環境を生かすことで、内容の充実と効率的な運営が可能になりました。例えば、市立図書館が主になって広報や参加者の募集を行います。実際、参加者の多くは図書館のポスターやホームページ等を見て申し込みました。

参加者に好評です!

実施後のアンケートでは、「説明が親切で分かりやすい」「体験できてよかった」「また参加したい」と参加者から高く評価されています。また、生徒が説明したり補助したりする体験は、生徒にとっても貴重な学びの機会となるでしょう。

3年目の新企画

地域に密着した図書館との協働は、学校の活動を広く地域につなげる第一歩です。

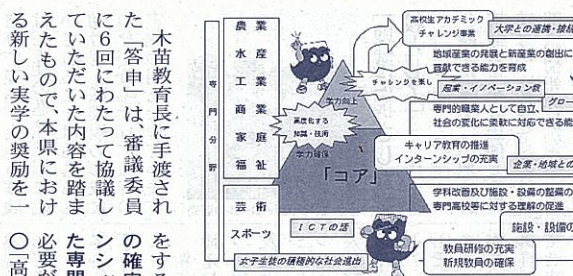
今年度は、図書館の読書週間に合わせて、各高校の生徒が小中学生に薦める本を紹介したり、図書館の蔵書を各講座で活用したりするなど、取組が広がっています。これからも、互いの強みや環境を生かして、地域に役立つ講座を実施していきます。

今年も10月3日、「ワクワク生き物講座」(磐田南高)から始まります。多くの方の御参加をお待ちしています。

問 磐田市立中央図書館 0538(32)5254 【静岡県立磐田北高等学校】

昨年8月に県教育委員 会が諮問した「専門高校 等における新しい実学 奨励の在り方について」の 答申が去る8月21日、 県庁において、本審議会 会長である伊東幸宏静岡 大学学長から木苗直秀県 教育長に手渡されました。 今回の審議会は、「高校 と大学の連携・接続のあ り方検討委員会」創造性 を育むために「最終報 告書(平成26年4月)」に おいて、農業、工業、商業、 芸術、スポーツ等の専門 分野での「新しい実学」 を奨励する提言が出され、更に職業教育、キャリア 教育の在り方について検 討を行っていく必要性が 指摘されたことを受けて 開催されました。

静岡県産業教育審議会 答申が手交されました!



新しい実学の奨励

審査は大学教員や企業 関係者など12人の委員に よって行われ、次の三つ の視点から「新しい実学 の奨励の在り方につい て」検討されました。 ○「専門的職業人として 自立し、社会の変化に柔 軟に対応できる能力を育 成する方策」 ○「地域産業の発展と新 産業の創出に貢献できる 能力を育成する方策」 ○「学科改善及び施設・ 設備の整備の在り方並び に専門高校等に対する理 解を促進する方策」

層進めるとも に、適切な施策を 推進していくた めの指針となる ものです。

答申の概要

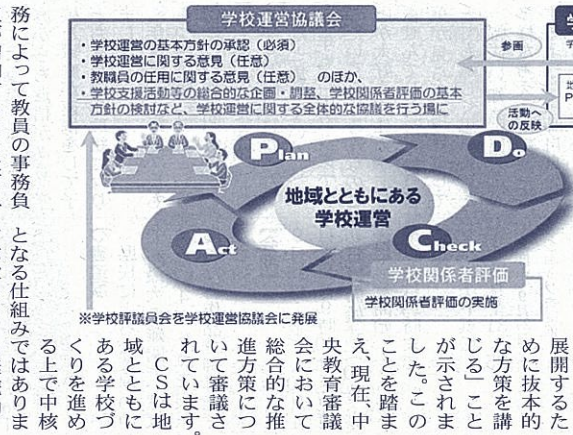
農業、工業、商 業、芸術、スポー ツ等の各専門分 野において共通 して取り組むべ き事項として、そ れぞれの視点か ら、次のような答 申がされました。 ○学力の確保。 向上と「キャリ ア教育の推進」 をするために、基礎学 力を確実に定着イン ターシッパの充実、突 出した内容や踏ま えたもので、本県にお ける新しい実学の奨励を 必要とする。 ○「高度化への対応」と

「グローバル化への対応 するのために、実践的な 職業教育の推進、海外イ ンターシッパの実施、 起業家精神の育成などに 取り組む必要がある。」 ○「学科改善」施設・設 備の整備「専門高校等の 理解促進」専門高校等の 専門学科等の存在意義等 を明確にし、必要な機器 等の整備に努めるとも して取り組むべし、各専門 分野を生かした 特色ある行事や取組等 をより一層充実させ、産 官連携による社会総がかりの教育を実施する必 要がある。

答申では、各専門分野 において取り組むべき事 項が個別に示されていま す。今後は、答申を具現化 するための方策等につい て、各専門分野で積極的 に取り組んでいきます。

務によって教員の事務負 担が増加することなどへ の懸念が指摘されていま す。これらは、学校・地域 の関係者の相互理解と連 携によって一定程度解消 するものではありませんが、 工夫と努力が必要である ことも事実です。本推進 事業では、磐田市・御前 崎市・富士市におけるC Sの取組の成果と課題を 詳細に検証していく予定 です。

「地域とともにある学校づくり」の3つのポイント



※その1の2は133号と138号に掲載

【義務教育課】

ティ・スク

実践NOTE 315

「おいしいパンを届けたい」 食品製造実習・農産物販売 から考えるキャリア教育

静岡農業高等学校 教諭 芝原圭



筆者

本校食品系は「食品産
業のスペシャリストを目
指し、食品を科学する」
という目標のもと、学習
内容や目指す進路先に応
じて2年次より「食品製
造」「食品栄養」「食品調
理」「食品サービス」の4
類型に分かれ、専門的な
学習をしています。

その中でも「食品調理」
類型は、食品の調理や加
工、販売などの学習を通
じて、健康で豊かな食生
活を実現できる人材の育
成を目標にしています。

「目標は、プロフェッショ
ナル」

本校では、毎月の第2
水曜日の放課後、農産物
販売を実施しています。学
校内で生産された花や野
菜、果物、パン、イチゴジ
ヤム、味噌などを生徒自
らが販売することで、裁
培や製造の技術を身に付
け、お客様に商品の魅力
を伝えるとともに、接客
技術を学んでいます。

その中でも、一番の人
気商品は「シナモンシュ
ガロール」です。食品
調理類型の3年生22人が
科目「食品製造」の授業
の中で約100個の製品
を仕上げていきます。夏
場は大変蒸し暑い中での
作業ですが、誰一人弱音
を吐くことなく、「おいし
いパンを届けたい」とい
う思いを込めて、笑顔で
パンを作りまです。ここ
で、私が一番に伝えている
のが、「職業人として大切な
プロ意識を持つ」という
ことです。

4月当初の実習では、
生徒はパン生地に触れる
のも初めてで、なかなか
うまく製品ができません
そのときには、「最初は誰
でも初心者だから今は出
来なくてもいいけれど、
目標はプロフェッショナ
ルだ」「自分がお客さん
になりたいと思う商品を作
ることがプロだ」と言い
続けます。最初は、べとつ

生地が悪戦苦闘してい
る生徒も、何回も練習す
るうちに、丸めや成型が
うまくなり、自信を持っ
て製造できるようになり
ます。

パン製造の難しいとい
ろは、毎回、生地の状態が
異なることです。その日
の温度や湿度、小麦粉の
種類、捏ね具合や発酵の
状態などにより、出来た
生地の固さや張りや違い
ます。そのような状態の
生地を、毎回、同じよう
に成型して焼き上げなけ
ばなりません。特に本校
の施設には、エアコンが
ないため、室温が重要な
になります。パンは生きて
います。発酵も焼成も時
間ではなく、状態で判断
することが大切で、教科
書どおりにいかないか
らこそ、経験と判断力が
問われます。

日本近代農学の祖、横
井時敬農学博士は「稲の
ことは稲に聞け」という
言葉を残しています。そ
れに従えば「パンのこと
はパンに聞け」といった
ところでしょうか。生命
と農、食を科学する農業
高校ならではの教材です。

放課後の販売は接客業
務の実践の場です。毎回
1時間ほど前から多くの
お客様が並び始めます。
と聞いています。

生徒は自分から積極的
に「いらっしゃいませ」と
声を張り上げます。「い
つもおいしいよ」「もつと
たくさん作って」などお客
様からの意見を直接聞き
やり取りをすることで
生徒のコミュニケーション
能力の向上が図られる
とともに、次の販売に
向け、課題の発見とその
解決を行っていきます。
「今日は20分で完売した
」「お客さんがたくさん来
てくれてうれしい」「もつ
と丁寧な作れば商品価値
が上がると思う」となど
生徒から、様々な感想が聞
かれます。

「自分が作ったものを
自分で売る」という体験
は、生徒の進路選択に生
かされることはもちろん、
勤労観、職業観の形成に
つながりキャリア教育の
実践の場となっています。

井時敬農学博士は「稲の
ことは稲に聞け」という
言葉を残しています。そ
れに従えば「パンのこと
はパンに聞け」といった
ところでしょうか。生命
と農、食を科学する農業
高校ならではの教材です。

放課後の販売は接客業
務の実践の場です。毎回
1時間ほど前から多くの
お客様が並び始めます。
と聞いています。



シナモンシュガロールの製造

「問われる判断力」

「地域に根ざした学
校として」

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

「地域に根ざした学
校として」

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

農産物販売は、地域の
皆様の声を直接伺える貴
重な場であるとともに、外
部への情報発信の場もあ
ります。これからは農産物
販売を通して、農と食の情
報発信を行い、地域を支
える食のスペシャリストの
育成に力を注いでいきたい
と思っています。

実践NOTE 316

一人一人が活躍できる 学級を目指して 自己肯定感を高めるために 自己有用感を高めるために

浜松市立赤佐小学校 教諭 有谷沙弥香



筆者

子どもたちに、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。

一年間かけて継続的に
花丸を掲示していくこと
で、子どもたちは「自分
たちにはいいところがあ
り、自分たちが頑張った
ところがある」と感じ、
いいクラス、などと感じ
てきました。

子どもたちは、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。

一年間かけて継続的に
花丸を掲示していくこと
で、子どもたちは「自分
たちにはいいところがあ
り、自分たちが頑張った
ところがある」と感じ、
いいクラス、などと感じ
てきました。

子どもたちは、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。

一年間かけて継続的に
花丸を掲示していくこと
で、子どもたちは「自分
たちにはいいところがあ
り、自分たちが頑張った
ところがある」と感じ、
いいクラス、などと感じ
てきました。

子どもたちは、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。

一年間かけて継続的に
花丸を掲示していくこと
で、子どもたちは「自分
たちにはいいところがあ
り、自分たちが頑張った
ところがある」と感じ、
いいクラス、などと感じ
てきました。

子どもたちは、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。



教室掲示にも工夫を

自己肯定感を育んだり、
自分たちの言動に一層責
任をもつたりして、良い
集団づくりにつながりま
した。

また、花丸が50個たま
ったら、花丸お祝いの会
を開く約束も子どもたち
の励みになりました。会
を開くに当たり、計画や
準備を進めていくことも
子どもたちに任せること
で、主体的な活動や活躍
の姿が見られました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。

一年間かけて継続的に
花丸を掲示していくこと
で、子どもたちは「自分
たちにはいいところがあ
り、自分たちが頑張った
ところがある」と感じ、
いいクラス、などと感じ
てきました。

子どもたちは、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。

一年間かけて継続的に
花丸を掲示していくこと
で、子どもたちは「自分
たちにはいいところがあ
り、自分たちが頑張った
ところがある」と感じ、
いいクラス、などと感じ
てきました。

子どもたちは、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。

一年間かけて継続的に
花丸を掲示していくこと
で、子どもたちは「自分
たちにはいいところがあ
り、自分たちが頑張った
ところがある」と感じ、
いいクラス、などと感じ
てきました。

子どもたちは、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。

一年間かけて継続的に
花丸を掲示していくこと
で、子どもたちは「自分
たちにはいいところがあ
り、自分たちが頑張った
ところがある」と感じ、
いいクラス、などと感じ
てきました。

子どもたちは、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

子どもたちが小さなこ
とも目標を持ったり、
成長した自分の姿に見通
しを付けたりするのために、
自分の努力が明確に分か
るような視覚的な支援を
心掛けました。特に、教室
掲示を積極的に活用し、
「クラスのいいところ」
と題して花丸を掲示する
取組を行いました。

一年間かけて継続的に
花丸を掲示していくこと
で、子どもたちは「自分
たちにはいいところがあ
り、自分たちが頑張った
ところがある」と感じ、
いいクラス、などと感じ
てきました。

子どもたちは、自分が
学級に必要なと感じても
らいたい。自分に自信も
もって生活してほしい
そんな思いから、「一人一
人が活躍できる学級」の
実現を目指して実践を進
めてきました。

直りができなかったら助
けてください」というよ
うに、日頃感じているこ
とや人前では声にできな
いことが書かれるなど反
応が見られるようになり
ました。書き取り帳を通
じたコミュニケーション
をもちつくりながら、良
い状態を把握する上で、
でも役立つ取組となりま
した。

また、家庭とも意識し
て連携をとるようしま
した。日頃学校と家庭と
を結び付けている学習カ
ードを活用し、連絡欄に
は、今日学校であったこ
とや子どもの良い表れを
なるべく記入して家庭に
返すようになりました。家
庭からも返信があり、学
校と家庭が連携をして子
どもを見守る取組になり
ました。

年度末、子どもからも
「この一年間、毎日ごと
とも楽しくて土曜日曜
も早く月曜日にならない
かな」と思っていました
。来年もこのクラスでい
くことも意識しました。「
例えば、毎日の家庭学習
きたいくらいみんなのこ
とが大好きで仕方があり
の添削をする」とも、
書き取り帳に必ず一言、
言葉添えするように心掛
けました。

「今日も友達にやさし
くできたね」「水泳がは
まっているね」というよ
うに子どもを認めたり褒
めたりする言葉を文字に
残しました。子どもから
も「持久走に向けて練習
がんばります」「ケンカ
の仲

子ども同士の間わりを
意識した取組だけでなく、
教師と子ども、教師と家
庭をつなぐ取組も行いま
らないよう、日頃から子
どもたちとたくさん触れ
合うことも意識しました。
例えば、毎日の家庭学習
きたいくらいみんなのこ
とが大好きで仕方があり
の添削をする」とも、
書き取り帳に必ず一言、
言葉添えするように心掛
けました。

「今日も友達にやさし
くできたね」「水泳がは
まっているね」というよ
うに子どもを認めたり褒
めたりする言葉を文字に
残しました。子どもから
も「持久走に向けて練習
がんばります」「ケンカ
の仲

子ども同士の間わりを
意識した取組だけでなく、
教師と子ども、教師と家
庭をつなぐ取組も行いま
らないよう、日頃から子
どもたちとたくさん触れ
合うことも意識しました。
例えば、毎日の家庭学習
きたいくらいみんなのこ
とが大好きで仕方があり
の添削をする」とも、
書き取り帳に必ず一言、
言葉添えするように心掛
けました。

「今日も友達にやさし
くできたね」「水泳がは
まっているね」というよ
うに子どもを認めたり褒
めたりする言葉を文字に
残しました。子どもから
も「持久走に向けて練習
がんばります」「ケンカ
の仲

子ども同士の間わりを
意識した取組だけでなく、
教師と子ども、教師と家
庭をつなぐ取組も行いま
らないよう、日頃から子
どもたちとたくさん触れ
合うことも意識しました。
例えば、毎日の家庭学習
きたいくらいみんなのこ
とが大好きで仕方があり
の添削をする」とも、
書き取り帳に必ず一言、
言葉添えするように心掛
けました。

「今日も友達にやさし
くできたね」「水泳がは
まっているね」というよ
うに子どもを認めたり褒
めたりする言葉を文字に
残しました。子どもから
も「持久走に向けて練習
がんばります」「ケンカ
の仲

子ども同士の間わりを
意識した取組だけでなく、
教師と子ども、教師と家
庭をつなぐ取組も行いま
らないよう、日頃から子
どもたちとたくさん触れ
合うことも意識しました。
例えば、毎日の家庭学習
きたいくらいみんなのこ
とが大好きで仕方があり
の添削をする」とも、
書き取り帳に必ず一言、
言葉添えするように心掛
けました。

「今日も友達にやさし
くできたね」「水泳がは
まっているね」というよ
うに子どもを認めたり褒
めたりする言葉を文字に
残しました。子どもから
も「持久走に向けて練習
がんばります」「ケンカ
の仲

子ども同士の間わりを
意識した取組だけでなく、
教師と子ども、教師と家
庭をつなぐ取組も行いま
らないよう、日頃から子
どもたちとたくさん触れ
合うことも意識しました。
例えば、毎日の家庭学習
きたいくらいみんなのこ
とが大好きで仕方があり
の添削をする」とも、
書き取り帳に必ず一言、
言葉添えするように心掛
けました。

「今日も友達にやさし
くできたね」「水泳がは
まっているね」というよ
うに子どもを認めたり褒
めたりする言葉を文字に
残しました。子どもから
も「持久走に向けて練習
がんばります」「ケンカ
の仲

子ども同士の間わりを
意識した取組だけでなく、
教師と子ども、教師と家
庭をつなぐ取組も行いま
らないよう、日頃から子
どもたちとたくさん触れ
合うことも意識しました。
例えば、毎日の家庭学習
きたいくらいみんなのこ
とが大好きで仕方があり
の添削をする」とも、
書き取り帳に必ず一言、
言葉添えするように心掛
けました。

「今日も友達にやさし
くできたね」「水泳がは
まっているね」というよ
うに子どもを認めたり褒
めたりする言葉を文字に
残しました。子どもから
も「持久走に向けて練習
がんばります」「ケンカ
の仲

子ども同士の間わりを
意識した取組だけでなく、
教師と子ども、教師と家
庭をつなぐ取組も行いま
らないよう、日頃から子
どもたちとたくさん触れ
合うことも意識しました。
例えば、毎日の家庭学習
きたいくらいみんなのこ
とが大好きで仕方があり
の添削をする」とも、
書き取り帳に必ず一言、
言葉添えするように心掛
けました。

子ども同士の間わりを
意識した取組だけでなく、
教師と子ども、教師と家
庭をつなぐ取組も行いま
らないよう、日頃から子
どもたちとたくさん触れ
合うことも意識しました。
例えば、毎日の家庭学習
きたいくらいみんなのこ
とが大好きで仕方があり
の添削をする」とも、
書き取り帳に必ず一言、
言葉添えするように心掛
けました。

いよいよ展覧会シーズン
到来！今年も展覧会場
にワークショップも開催
！！

◇華道展
県華道連盟会員による
華道作品を展示。秋の連
休の前半、華麗な生け花
作品をぜひ御覧ください。

【会期】
9月18日(金)～20日(日)
10時～17時
初日は10時から開会式
最終日は15時まで

【会場】
クリエート浜松
ギャラリー32～35
※期間中、9月19日(土)・20日(日)にワークショップを開催

◇書道展
県民による公募展の中
でも最大の難関で、選ば
れた約400点を展示
優れた書作品を御堪能
ください。

【会期】
9月25日(金)～10月4日(日)
9時30分～17時
初日は開始式(10時)後、に展覧開始
最終日は14時まで

【会場】
クリエート浜松
ギャラリー31～35
※期間中、9月27日(日)にワークショップを開催

◇詳細は、開催リーフレット・ポスターやワーク
ショップで配布している
御覧ください。

【問合せ】 県文化政策課
054(22)2254

健康診断の受診はお済みでしょうか。忘れず受診に行きましよう。健康診断は受診後が大切です。要精密・要医療の判定が出た場合は、速やかに医療機関を受診ましよう。【福利課】

三陸復興の風景

岩手県派遣職員(文化財保護課) 岩名建太郎

オールジャパン

文化財復興班

東日本大震災が発生して既に4年が経過しました。しかし、仙台以北の太平洋沿岸の主要幹線である国道45号線では、今も復興工事のための大型トラックの通行が止みません。すれ違うこれらのトラックは、様々な地方のナンバープレートをつけており、日本全国の力がここに集められていることを実感します。

4月から私は、岩手県教育委員会生涯学習文化課に所属し、県沿岸部で行われる、復興工事に伴う埋蔵文化財調査に従事しています。

同じ部署には、北海道及び秋田・滋賀・兵庫・大分・鹿児島・沖縄の各県から派遣された職員と、地元岩手県の職員が席を並べ、3〜4人が一組となって、大型バンに器材

大自然の中「生きる力」が育まれる 富士山麓山の村からのメッセージ



山の村での活動風景

日常から離れて集団生活することは、子どもたちにも様々な「気付き」をもたらす。「学び」や「絆」を深め、忘れられない思い出となります。世界に誇る富士山は、自然の学びの宝庫です。

◆自然の良さや友達の良いさをたくさん発見できて

を詰め込み、月曜日の朝盛岡市にある県庁から発掘調査現場へ向かい、現地でも5日間滞在し、金曜日の午後に戻ってくるという生活を繰り返しています。

今年に入って、岩手県では、内陸部で震度5弱を観測した地震が2回ありました。

宮古市から釜石市にかけての沿岸部には、強固な花崗岩質の地盤が広く分布しており、震源が内陸部より近距離であった

輝く大地と土器

にもかわかわらず、震度は3〜4に止まりました。花崗岩は石英、長石を主な成分とする火成岩の一種で、他に雲母が大量に含まれます。

雲母は金属光を帯びる鉱物で、花崗岩を素にして出来た土は、砂金が散りばめられたり、砂金のようキラキラと輝いています。ですから、この土を材料にして作られた縄文時代の土器も、太陽にさすすと光り輝いて見えるのです。

マルコ・ポーロの『東方見聞録』に伝えられている「黄金の国ジバング」

世界遺産と未来の姿

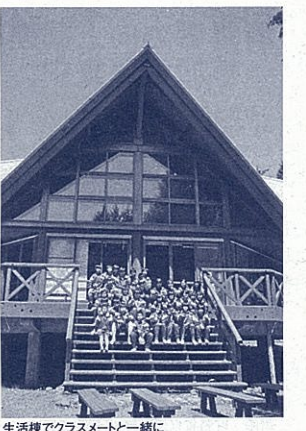
先日、九州・山口と関連地域に広がる「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録が決定しました。

九州・山口以外の関連地域産業革命遺産は二つあります。

一つは皆様ご存知の伊豆の国市にある韭山反射炉。もう一つは釜石市の橋野鉄鉱山・高炉跡です。世界遺産登録決定後、県外からの観光客の車の乗り入れが急増しました。

今後このような状況が続く、他県ナンバーの乗用車の数が、工用トラックのそれを追い越したとき、復興の階段が一つ上がり、新たな「ジバング」の姿が登場することになるでしょう。

浜松市立立相良中学校



生活棟でクラスメートと一緒に

◆富士山の自然も、緑豊かでもステキでした。私は近くの山によく行きますが、山の村のような皆さんのキレイなコケが生えている光景は初めてでした。二年生になって、もう一度行く時を楽しみにしています。

◆自然の中で食べた御飯がおいしかった!! クラス

山の村の新たな活用を

集団宿泊研修での利用に限らず、「教室」ではない学びの場として、山の村を気軽に活用してみたいかがでしょうか。

◆自然の中で食べた御飯がおいしかった!! クラス

富士山麓山の村からのメッセージ

◆富士山の自然も、緑豊かでもステキでした。私は近くの山によく行きますが、山の村のような皆さんのキレイなコケが生えている光景は初めてでした。二年生になって、もう一度行く時を楽しみにしています。

◆自然の中で食べた御飯がおいしかった!! クラス

静岡県出土の逸品⑦ 古代の輝きを保つ小銅鐸

青木原遺跡(三島市)

三島市の南部を流れる御殿川で小銅鐸が見つかったのは平成21年のことです。青木原遺跡から出土した小銅鐸は、高さ12.6cmで、頂部の鈕(ちゆう)から両側面の鰭(ひれ)と呼ばれる部位にかけて連続する隆線文(りゆうせんもん)が、裾には綾杉文(あやすぎもん)が施されており、突線鈕式(とっせんちゆうしき)銅鐸の小型品と言えます。年代は、弥生時代後期から古墳時代前期に属すると考えられます。銅鐸は裾内面の突帯と内部に吊るした舌(ぜつ)とで音を鳴らしますが、青木原の小銅鐸にもわずかに突帯が見られます。ただ外見的特徴から、鳴らすことよりも、見ることに存在意義が変わってきているように考えられます。

この小銅鐸のもうひとつの特徴は、赤銅色の金属光沢があることです。通常は青緑色のさびで覆われていることが多いのですが、この小銅鐸に当時の光沢が残っていたのは、川岸の砂礫層に埋まっていた、空気に触れない状態であったからです。この美しい色と質を保つために、遺跡から取り上げた直後はアルコール溶液に漬けて空気と遮断してさびを防ぎました。現在は、真空状態を維持することができる密閉容器中で保管して、金属光沢が失われないようにしています。

青木原遺跡出土小銅鐸は、県埋蔵文化財センター常設展「古代からの贈り物」(県中央図書館3階展示室で開催中)で御覧いただけます。

【埋蔵文化財センター】青木原遺跡の小銅鐸(青木原遺跡 三島市)



70人を超える県民合唱 第5回県民オペラ「イリス」来春公演

◆平成28年2月14日(日)、アクトシティ浜松で第5回県民オペラ「イリス」を上演します。チケットは10月10日(土)から販売します。多くの方に見ていただけるようお求めやすい価格になっています。この機会にぜひ本物のオペラ公演をご鑑賞ください。

◆「イリス」は、イタリアのオペラ作曲家ピエトロ・マスカーニが、19世紀末ヨーロッパで紹介された日本をイメージして創作した「隠れた名作オペラ」です。物語は、吉原遊廓に売られた少女イリスが悲劇のうちに身投げしますが、富士山の麓でイリス(あやめ)の花となって蘇るという幻想的なお話です。

◆今回は、原作にある富士山より近い、駿府の城下町にあった二丁町遊廓を舞台としました。イリス役には第6回静岡国際オペラコンクール最高位及び三浦環特別賞を受賞した吉田珠代さん(ソプラノ)を迎えました。また、70人を超える県民オペラ最大規模の県民合唱団であるコー・ロ・デル・ソレが、悲劇的なイリスの魂を浄化すべく壮大な太陽讃歌を歌い上げます。

◆公演情報
日時:平成28年2月14日(日)14時開演 場所:アクトシティ浜松大ホール

◆チケット情報
10月10日(土)~
チケットぴあ取扱い店ほかで発売。S指定席5000円・A指定席4000円・一般自由席2000円・学生1000円
※学生は大学生以下 ※未就学児入場不可

【文化政策課】

